

よりよく関わり、自分を生き生きと輝かせる英比っ子

—「命」を大切にすることを育む道德教育—

阿久比町立英比小学校

1 主題設定の理由

「命を大切にすること」は、他者も自分も、同じようにかけがえのない存在だと自覚することで、育まれていくと考える。したがって、道德の時間だけに頼ることなく、自分との関わりで道德的価値をとらえることができる、学習活動の設定が必要である。各教科や総合的な学習の時間等での体験的な学習活動と道德の時間とをより密接に関わらせていき、体験活動での気づきを道德の時間に深化・統合させたり、道德の時間に学んだことを活動の中で実践したりすることにより、生きることのすばらしさの自覚を深めたいと考え、上記のように研究主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 研究の仮説

子どもたちの体験や実感と道德資料とを密接に関わらせて、「自分だったら」「自分にとって」と真剣に考え抜くことができる道德の授業を工夫することにより、自他の生命のかけがえのなさに気づき、「命」を大切にすることを育まれるであろう。

(2) ねらいに迫るための手だて

ア 他教科、総合的な学習の時間、行事など、教育活動全体を道德の時間と関連付け、各学年の発達段階に応じて、命の大切さについて理解できるように工夫する。

イ 「自分のこと」として考えることができるように、実態に沿った発問や必然性のある発問を工夫する。

ウ 意欲や意識が高まるような、導入や終末のあり方を探る。

エ 価値について多様な意見が出され、学び合える話し合いのあり方を探る。

オ 資料の内容や話し合いの流れが、十分に理解できるような板書の工夫をする。

カ 心の変容が把握できるような、評価の方法を工夫する。

キ 「わたしたちの道德」を使った授業実践を進め、指導方法や有効な活用方法を研究する。

ク 子どもを見つめる意識を高めるため、学年道德を推進する。

ケ コミュニケーションタイムを設定し、互いの発言や行動を認め合う場面を設けることで、人間関係を高める。

(3) 道德の年間計画づくり

道德教育は、校長の方針のもと学校の教育活動全体で取り組まれ、個々の責任ある実践に託されていくものである。学校が組織体として一体となって道德教育を進めるために、全教師が力を発揮できる体制を整える必要がある。そこで本校では本年度研究テーマを踏まえ、全教師が協力して道德教育を展開するため「道德教育全体計画」に基づく「道德教育の全体計画の別業」を全教師の参画のもと、作成した。

(4) 道德の時間の実践

本年度は全学年で道德の時間に「3-(1) 生命尊重」を重点項目として取り組んだ。特に、学校訪問の特設の授業を「道德」で行い、全職員で資料分析や発問や板書の検討を通して、ねらいに迫る授業づくりに取り組んだ。

低学年の実践から「命あるものを尊ぶ」(わたしたちの道德)

① ねらい

現実性をもって死を理解できるといわれるこの時期に、社会的な関わり、自然、生命の尊厳性などの様々な視点から生命について考えることで、自分だけではなく、あらゆる生命を尊重しようとする気持ちを高めたい。

② 指導の実践

導入の場面で「わだち」と「ヒキガエル」の画像を提示したり、場面絵とキーワードを提示したりしながら語りで聞かせることで、児童に話の内容をよく理解させることができた。「なぜ、ひき殺さなかったんだ？」という児童の発言を基に、補助発問「疲れているロバが力を振り絞って、ヒキガエルを助けたのはどうしてでしょう」を投げかけたことで、「大切な命を守るため」、「小さな生き物の命も大切だから」という価値の把握につなげることができた。価値の自覚の場面では、「動物もぼくたちと同じで命は一つしか無い」、「生き物をいじめたり殺したりしないようにしたい」「生き物をいじている人がいたら止めようと思う」というような、実生活へつながる感想をもつことができた。

高学年の実践から「その思いを受けついで」(わたしたちの道德)

① ねらい

命には限りがあること、自分の命は、祖先から受け継がれてきたものであることを自覚させたい。そして、生きていることへの感謝、力強く生き抜くことの大切さに気付かせたいと考えた。

② 指導の実際

本授業では、場面に寄り添うような静かな教師の語り、キーワードや場面絵の提示、そして実際の医療器具の紹介などで、主人公の心情を丁寧に見つめさせるようにした。子どもたちは、主人公に深く感情移入し、かけがえのない命について思いを巡らせることができた。振り返りシートには、「大切な人の死が、これほど胸を押しつけるような苦しい気持ちになるとは思わなかった」「どんな壁でも乗り越えられる大人になりたい」「生きていることに感謝したい。命を大切にしたい」など、生命の終わりや命の尊さを実感する言葉が綴られていた。



道徳の授業の様子

(5) 道徳の時間以外の取組

子どもたちの心を揺さ振り、生き生きと話し合う道徳の時間を展開するためには、資料と密接に関わる活動や体験が必要不可欠であると考えた。そこで、本年度は学級活動、生活科、学習発表会などの学校行事においても「生命尊重」を意識的に取り上げ、各学年教育実践を行った。

学年	教科・その他	内 容
1	生活科	アサガオをそだてよう
2	学活	赤ちゃんはどこから
3	理科	チョウを育てよう
4	行事	福祉実践教室・居住地交流
5	行事	学習発表会「かけがえのない命」
6	学活	いのちの木の掲示
おおぞら	生活単元	おいしい野菜をたくさんありがとう



いのちの木掲示板

(6) 一斉道徳授業

今年度、「あぐい教育の日」の授業参観の授業を全クラス道徳の授業とした。また単位については、学年1で「生命の尊重3－(1)」に関わる内容項目で授業を行った。

道徳の授業を公開することにより、保護者・地域の人にも「命を大切にする」ことについてより意識してもらおう機会とした。参観していただいた方からは、「命の大切さを伝える授業でしたが、子どもたちにも理解しやすく考えさせられる内容でした。先生の話し方、説明もとても分かりやすくよかったです」などの意見をいただいた。

(7) 学年道徳

本校では、子どもを見つめる意識を高めるため、学年道徳を取入れた。時間割で同学年同時刻に設定し、一つの指導案で同学年の他クラスでも授業を実施できるようにしたり、一斉で学年道徳ができるようにした。資料や教材を共有化することで、授業づくりにかかる負担を軽減したり指導案や発問などの改善を目指したりした。

(8) コミュニケーションタイム

本校は、毎週木曜日の授業前10分間を「コミュニケーションタイム」として、自分の考えや思いを伝え合い、お互いを認め合う関係づくりの時間としている。

5年間取り組んでいるが、年々児童は、自分の思いを発信し、互いの考えを受け止めることができるようになってきた。また、道徳や他の教科でも活発な意見交換ができるようになり、話し合い活動の基盤になっている。そして、人間関係を高めたり学級経営につながったりしている。

(9) 道徳の授業の研修

道徳の授業の授業力向上をめざして、加木屋中学校の先生を講師として招聘した。年2回、全職員で道徳の研究授業を参観した後に、研究協議会を設定し、指導・助言をいただくこととした。今年度は、「命」を大切にする心を育む道徳教育を推進するため、道徳の授業は、生命尊重(3－(1))に関わる内容項目に絞った。